# 2022年度 決算説明資料

2023年２月17日
横浜ゴム株式会社

経理部の村田でございます。
2022年度連結決算の概要についてご説明します。

# 2022年度 連結業績

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.


連結業績の状況です。

# 損益実績（通期）

| | | | |
|---|---|---|---|
| 為替レート | US$ 132円 | 110円(前期) | +22円 |
| | EUR 138円 | 130円(前期) | +8円 |
| | RUB 2.0円 | 1.5円(前期) | +0.5円 |
| TSR20※ | 155ﾄﾞﾙ | 168ﾄﾞﾙ(前期) | ▲13ﾄﾞﾙ ※SICOM TSR20 1M |
| WTI | 94ﾄﾞﾙ | 68ﾄﾞﾙ(前期) | +26ﾄﾞﾙ |

（億円）

| | | 2022年 1-12月 | 2021年 1-12月 | 増減 | 増減率 | 為替影響 | 為替除く増減 | 前回予想 | 前回予想増減率 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 継続事業 | 売上収益 | 8,605 | 6,708 | +1,897 | +28.3% | +889 | +1,008 | 8,550 | +0.6% |
| | 事業利益 ※1 | 701 | 622 | +79 | +12.8% | +185 | ▲106 | 625 | +12.1% |
| | （事業利益率） | (8.1%) | (9.3%) | (▲1.2%) | | | | (7.3%) | |
| | 営業利益 | 689 | 836 | ▲148 | ▲17.7% | +186 | ▲334 | 605 | +13.8% |
| | （営業利益率） | (8.0%) | (12.5%) | (▲4.5%) | | | | (7.1%) | |
| | 当期利益 | 459 | 587 | ▲128 | ▲21.8% | | | 420 | |
| 非継続事業 | 当期利益 ※2 | – | 68 | ▲68 | - | | | – | |
| | 当期利益 ※3 | 459 | 655 | ▲196 | ▲29.9% | | | 420 | +9.3% |

本館ビル売却▲208
保険収入 ▲15

ハマタイト事業売却▲68

※1 事業利益＝売上収益 － (売上原価＋販売費及び一般管理費)
※2 ハマタイト事業譲渡
※3 親会社の所有者に帰属する当期利益

YOKOHAMA

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.



損益の状況です。

売上収益は8,605億円で、前期比1,897億円、28.3%の増収です。
内訳につきましては、後程ご説明します。

事業利益は701億円で、前期比79億円、12.8%の増益です。

営業利益は689億円で、前期比148億円の減益です。これは前年には本社ビル売却益や保険収入等が含まれており、その他収益が減少したことが主因となります。

当期利益は459億円、前期比196億円の減益となりました。これは前年にハマタイト事業を譲渡したことが主因となります。

その他収益、非継続事業の特殊要因がなければ当期利益も前年を上回っていました。売上収益および事業利益は過去最高となっており、中期経営計画の財務目標を2期連続して1年前倒しで達成することができました。

## 事業別セグメント（通期）

（億円）

| | | 2022年 1-12月 | 2021年 1-12月 | 増減 | 増減率 | 前回予想 | 前回予想 増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上収益 | タイヤ | 7,543 | 5,775 | +1,768 | +30.6% | 7,480 | +63 |
| | (うちYOHT) | (1,558) | (1,073) | (+485) | (+45.2%) | (1,610) | (▲52) |
| | ＭＢ | 962 | 844 | +118 | +14.0% | 970 | ▲8 |
| | その他 | 99 | 89 | +10 | +11.6% | 100 | ▲1 |
| | 合計 | 8,605 | 6,708 | +1,897 | +28.3% | 8,550 | +55 |
| 事業利益 | タイヤ | 668 | 572 | +96 | +16.8% | 582 | +86 |
| | (うちYOHT) | (221) | (147) | (+74) | (+50.2%) | (202) | (+19) |
| | ＭＢ | 40 | 38 | +2 | +4.9% | 54 | ▲14 |
| | その他 | ▲8 | 11 | ▲19 | － | ▲11 | +3 |
| | セグメント間消去 | 0 | 1 | ▲0 | ▲36.0% | － | +0 |
| | 合計 | 701 | 622 | +79 | +12.8% | 625 | +76 |

YOKOHAMA

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.



事業別セグメントの状況です。

まず売上収益です。タイヤ事業は7,543億円で、前期比1,768億円、30.6%の増収です。
内訳は国内新車用で+8億円、国内市販用で+159億円、YOHT（ヨコハマオフハイウェイタイヤ）を含む海外で+1,601億円となっています。

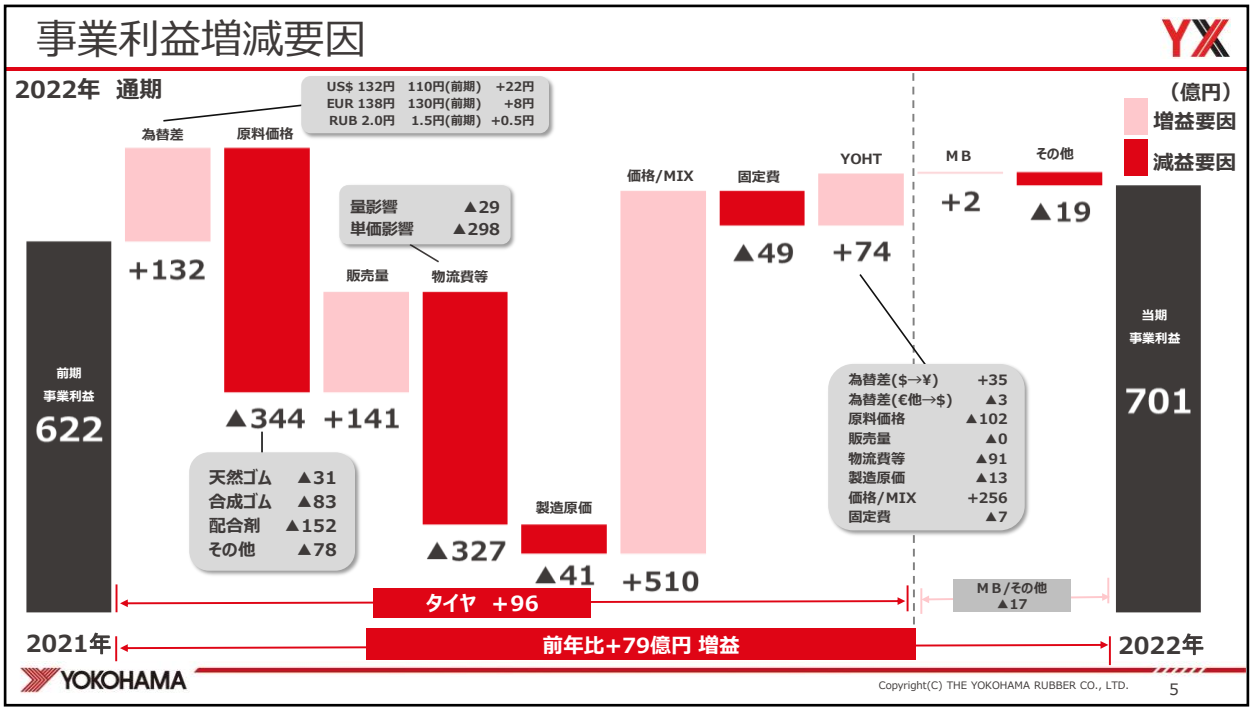
国内新車用については、自動車販売台数が前期比5.6%減少していますが、原料スライド等の影響で増収となりました。国内市販用では、スノータイヤが年初からの広範囲での降雪や流通在庫減少による返品減等もあり販売増となりました。またナツタイヤにおいても「ADVAN（アドバン）」、「GEOLANDER（ジオランダー）」の拡販等により増収となりました。

北米では半導体不足による影響はありましたが、新規納入車種増加により新車向けは増加し、市販市場でも乗用車用タイヤの需要減の中で各種販売施策の実施や値上げにより増収となりました。中国では半導体不足やコロナ政策による新車向けの減少はありましたが、市販向けは販売網整備などにより販売は増加しました。欧州については第４四半期に需要の減少がありましたが、年間では販売を増やすことができました。アジアも新車向け、市販向けとも販売を増やしました。

YOHTは北米など各販路でのコスト優位性を活かした施策の展開や値上げの浸透により、売上収益と事業利益は過去最高となりました。

MB事業は962億円で、前期比118億円、14.0%の増収です。ホース配管事業は半導体不足等の影響はあったものの、北米で自動車向けホースの受注が回復し、建機向けホースも国内での販売は堅調で増収となりました。工業資材事業ではコンベヤベルトが国内販売強化により国内の販売が好調で、海洋商品は海外での販売が堅調で増収となりました。航空部品では民需で航空需要の回復により補用品販売が増加し、増収となりました。

事業利益は買収関連費用を計上しているその他を除き、各事業で増益でした。




事業利益の増減要因です。前期が622億円、当期が701億円、差引＋79億円の要因です。

まず、タイヤ事業での+96億円の内訳になります。為替差で+132億円、原料価格で▲344億円で、内訳はスライドの通りです。

販売量は販売本数が3%増で＋141億円、物流費等の悪化で▲327億円となっています。
製造原価は生産量は増加しましたが、エネルギーコストが59億円悪化した影響で▲41億円となっています。

価格/MIXは未実現利益の悪化もありますが、海外を中心とした値上げの実行や高付加価値品へのMIX良化により+510億円となっています。

固定費は人件費、経費の増加等により▲49億円となっています。

YOHTの増減要因はスライドの通りですが、原材料、物流費の悪化を価格で対応し、為替の影響もあり+74億円の良化となっています。MBで+2億円、その他で▲19億円となっています。

# 損益実績（四半期別）

| | | | | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 為替レート | US$ 116円 | 106円(前期) | +10円 | US$ 130円 | 110円(前期) | +20円 | US$ 138円 | 110円(前期) | +28円 | US$ 141円 | 114円(前期) | +28円 |
| | EUR 130円 | 128円(前期) | +3円 | EUR 138円 | 132円(前期) | +6円 | EUR 139円 | 130円(前期) | +9円 | EUR 144円 | 130円(前期) | +14円 |
| | RUB 1.3円 | 1.4円(前期) | ▲0.1円 | RUB 2.0円 | 1.5円(前期) | +0.6円 | RUB 2.3円 | 1.5円(前期) | +0.8円 | RUB 2.3円 | 1.6円(前期) | +0.7円 |
| TSR20※ | 177ﾄﾝ | 167ﾄﾝ(前期) | +10ﾄﾝ | 165ﾄﾝ | 165ﾄﾝ(前期) | +0ﾄﾝ | 147ﾄﾝ | 166ﾄﾝ(前期) | ▲19ﾄﾝ | 130ﾄﾝ | 173ﾄﾝ(前期) | ▲43ﾄﾝ |
| WTI | 94ﾄﾞﾙ | 58ﾄﾞﾙ(前期) | +36ﾄﾞﾙ | 108ﾄﾞﾙ | 66ﾄﾞﾙ(前期) | +42ﾄﾞﾙ | 92ﾄﾞﾙ | 71ﾄﾞﾙ(前期) | +21ﾄﾞﾙ | 83ﾄﾞﾙ | 77ﾄﾞﾙ(前期) | +5ﾄﾞﾙ |

※SICOM TSR20 1M

（億円）

| | | 2022年 1-3月 | 2021年 1-3月 | 前年比 増減 | 2022年 4-6月 | 2021年 4-6月 | 前年比 増減 | 2022年 7-9月 | 2021年 7-9月 | 前年比 増減 | 2022年 10-12月 | 2021年 10-12月 | 前年比 増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 継続事業 | 売上収益 | 1,856 | 1,446 | +410 | 2,059 | 1,593 | +466 | 2,243 | 1,566 | +677 | 2,447 | 2,104 | +344 |
| | 事業利益 ※1 | 137 | 140 | ▲3 | 141 | 123 | +18 | 184 | 108 | +76 | 240 | 250 | ▲11 |
| | （事業利益率） | (7.4%) | (9.7%) | (▲2.3%) | (6.8%) | (7.7%) | (▲0.9%) | (8.2%) | (6.9%) | (+1.3%) | (9.8%) | (11.9%) | (▲2.1%) |
| | 営業利益 | 135 | 363 | ▲228 | 134 | 123 | +11 | 184 | 107 | +77 | 235 | 243 | ▲8 |
| | （営業利益率） | (7.3%) | (25.1%) | (▲17.8%) | (6.5%) | (7.7%) | (▲1.2%) | (8.2%) | (6.8%) | (+1.4%) | (9.6%) | (11.6%) | (▲2.0%) |
| | 当期利益 | 102 | 275 | ▲174 | 132 | 91 | +41 | 100 | 66 | +34 | 126 | 156 | ▲30 |
| 非継続事業 | 当期利益 ※2 | – | 3 | ▲3 | – | 1 | ▲1 | – | ▲0 | +0 | – | 64 | ▲64 |
| | 当期利益 ※3 | 102 | 278 | ▲177 | 132 | 91 | +40 | 100 | 65 | +34 | 126 | 220 | ▲94 |

※1 事業利益＝売上収益 －（売上原価＋販売費及び一般管理費）
※2 ハマタイト事業譲渡
※3 親会社の所有者に帰属する四半期利益及び当期利益

YOKOHAMA
Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.


四半期別の損益の状況です。

表の右側、10～12月期の状況についてご説明します。

売上収益は2,447億円で、前年同期比344億円、16.3%の増収です。売上収益は過去最高となっています。

事業利益は240億円で、前年同期比11億円、4.2%の減益です。

営業利益は235億円で、前年同期比8億円の減益、当期利益は126億円となり前年同期比94億円の減益ですが、前年度はハマタイト事業売却益64億円があったことと金融収支の悪化が主因です。

## 事業別セグメント（第４四半期）

（億円）

| | | 2022年 10-12月 | 2021年 10-12月 | 増減 | 増減率 | 為替影響 | 為替除く増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上収益 | タイヤ | 2,149 | 1,834 | +315 | +17.2% | +249 | +66 |
| | (うちYOHT) | (357) | (306) | (+51) | (+16.7%) | (+71) | (▲20) |
| | ＭＢ | 277 | 247 | +29 | +11.8% | +22 | +7 |
| | その他 | 21 | 22 | ▲1 | ▲3.5% | +0 | ▲1 |
| | 合計 | 2,447 | 2,104 | +344 | +16.3% | +271 | +72 |
| 事業利益 | タイヤ | 230 | 239 | ▲9 | ▲3.9% | +44 | ▲53 |
| | (うちYOHT) | (44) | (35) | (+8) | (+24.0%) | (+9) | (▲0) |
| | ＭＢ | 22 | 11 | +11 | +97.0% | +10 | +1 |
| | その他 | ▲12 | ▲0 | ▲12 | － | +0 | ▲12 |
| | セグメント間消去 | 0 | 0 | ▲0 | ▲66.2% | +0 | ▲0 |
| | 合計 | 240 | 250 | ▲11 | ▲4.2% | +54 | ▲64 |

YOKOHAMA

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.



事業別セグメントの状況です。まず売上収益です。

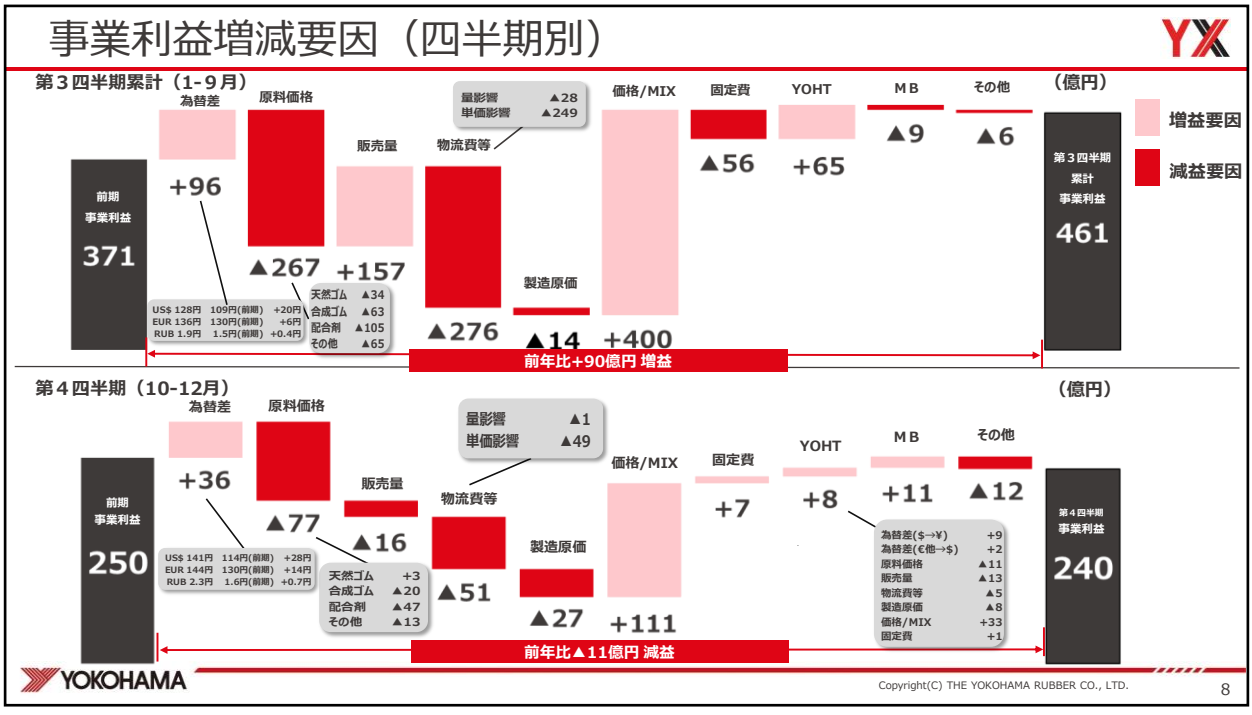
タイヤ事業は2,149億円で、前年同期比315億円、17.2%の増収です。内訳は国内新車用で+9億円、国内市販用で＋15億円、海外で+291億円となっています。

国内新車用については半導体不足は継続していますが、一部メーカーへの納入増加などで増収となりました。国内市販用は値上げ前の駆け込み需要の反動で販売減となりました。

北米では新規納入車種増加により新車向けは増加し、また市販市場向けは需要減の厳しい環境でしたが前年並みの販売を確保しました。欧州は需要減少の影響を受け減収でした。
中国は半導体不足やコロナ政策の影響を受け新車向けの販売は減少しましたが、市販向けの販売は増加しました。アジアでは新車向け、市販向けとも販売増となりました。

YOHTは新車向けが好調でしたが、市販向けは欧州を中心に需要減少の影響を受け低調に推移しました。

MB事業は277億円で、前年同期比29億円、11.8%の増収で、全事業が増収でした。




四半期ごとの事業利益増減要因です。

下段の階段グラフをご覧下さい。前期が250億円、当期が240億円、差引▲11億円の要因です。

タイヤ事業での▲9億円の内訳は為替差で+36億円、原料価格で▲77億円となっています。
内訳はスライドの通りです。

販売量は販売本数が7%減で▲16億円、物流費等の悪化で▲51億円となっています。

製造原価はエネルギーコストの増加や中国等の減産影響で▲27億円となっています。

価格/MIXは海外を中心とした値上げ、高付加価値品へのMIX良化により+111億円となっています。

固定費は経費や販促費の削減等により+73億円となっています。

YOHTは+8億円で、内訳はスライドの通りです。

MBは+11億円、その他で▲12億円となっています。

# 財務状況（前期末比）

（億円）

| | 22/12月末 | 21/12月末 | 前期末比<br>増減 |
|---|---|---|---|
| 流動資産 | 5,040 | 3,836 | +1,204 |
| 非流動資産 | 6,471 | 6,014 | +457 |
| 資産合計 | 11,511 | 9,850 | +1,661 |
| 負債 | 5,280 | 4,520 | +759 |
| 資本 | 6,231 | 5,330 | +902 |
| 負債・資本合計 | 11,511 | 9,850 | +1,661 |
| 有利子負債 （※1） | 2,387 | 1,772 | +615 |
| 自己資本比率（%） | 53.4% | 53.3% | +0.0% |
| D/Eレシオ | 0.39 | 0.34 | +0.05 |
| ROE（%）（※2） | 8.1% | 13.9% | ▲5.9% |
| ROIC（%） | 5.2% | 8.2% | ▲3.0% |

※1 有利子負債には、「リース負債」を含めておりません。
※2 当期利益/親会社所有者帰属持分（前期・当期の平均）×100

YOKOHAMA

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

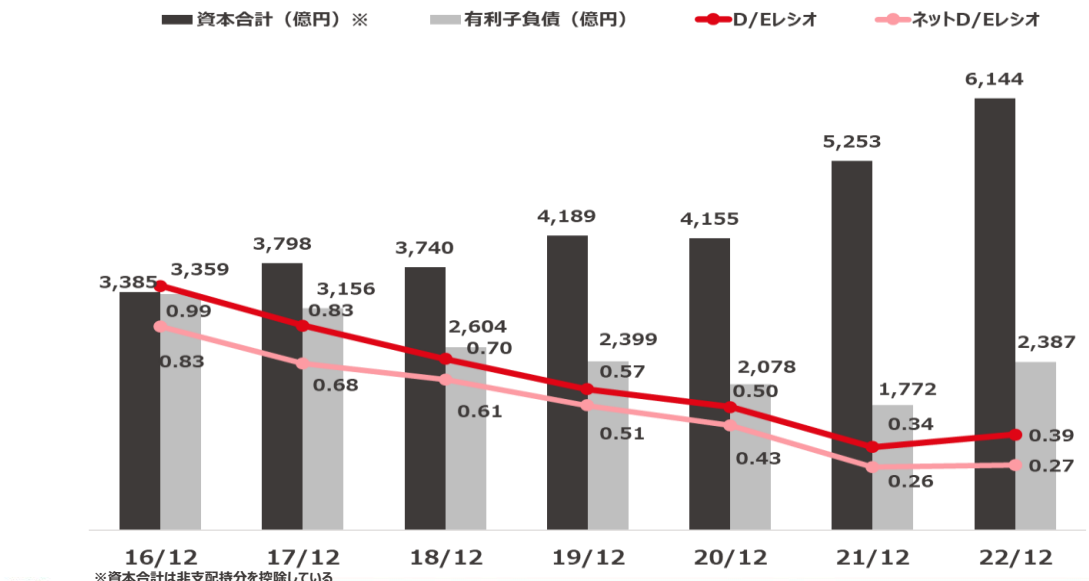


財務の状況です。

総資産は1兆1,511億円で、前期末比1,661億円の増加となっています。
為替円安により820億円程度総資産が増加しており、除く為替ではEUR資金の増加、売上増に伴う営業債権の増加、原材料高騰の影響を受けた棚卸資産の増加が主因となっています。

自己資本比率は53.4%となり、前期末並みとなっています。

# 有利子負債・純資産・D/Eレシオ・ネットD/Eレシオの推移




※資本合計は非支配持分を控除している

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.



D/Eレシオについては0.39倍となり、前期末と比較し0.05ポイント悪化していますが、
買収に備えEUR資金を手持ちしており、ネットD/Eレシオは前期並みとなっています。

なお、D/Eレシオ算定にあたり、リース債務は有利子負債には含めていません。

## キャッシュ・フローの状況

（億円）

| | 2022年<br>1-12月 | 2021年<br>1-12月 | 前年比<br>増減 |
|---|---|---|---|
| 営業活動によるCF | 392 | 683 | ▲ 291 |
| 投資活動によるCF | ▲ 464 | ▲ 45 | ▲ 419 |
| フリー CF | ▲ 71 | 638 | ▲ 710 |
| 財務活動によるCF | 352 | ▲ 552 | + 904 |
| 現金同等物の期末残高 | 756 | 425 | + 330 |

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

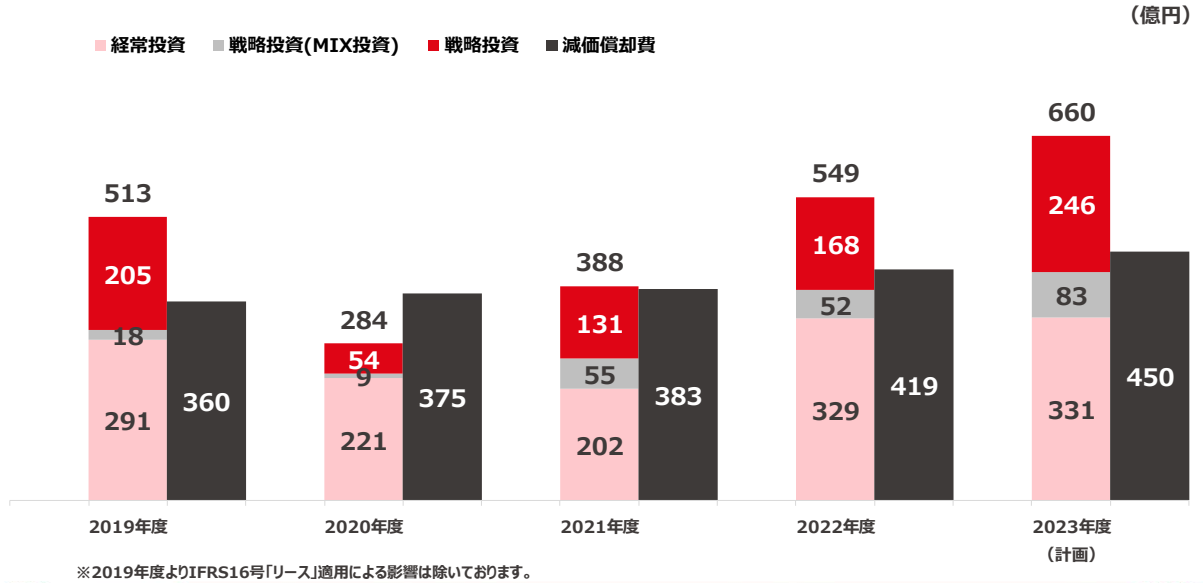

キャッシュ・フローの状況です。

当期の営業キャッシュ・フローは392億円で、前年に比べ291億円減少していますが、棚卸資産増加による運転資本の増加、税金の支払いの増加によるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは▲464億円となり、前期に比べ419億円支出が増加しました。固定資産取得の増加、前年は本社ビルの売却、ハマタイト事業の売却があった一方、今期は投資有価証券売却による収入が増加しました。

フリーキャッシュフローが▲71億円となり、有利子負債で資金を調達し、配当金の支払等に充当し現預金が330億円増加しました。

# 設備投資と減価償却費




※2019年度よりIFRS16号「リース」適用による影響は除いております。

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.



設備投資と減価償却費です。

2022年度は549億円の設備投資を行っています。

戦略投資で220億円支出しており、OHT（オフハイウェイタイヤ）の増産投資、ヨコハマインディアの増産投資、MIX改善投資を中心に実施しました。

2023年度は660億円を計画しており、引き続きOHTの増産投資、MIX改善投資を計画しています。

# 2023年度の業績予想

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.


2023年通期の業績予想です。

# 2023年　通期業績予想

| | | | |
|---|---|---|---|
| 為替レート | US$ 128円 | 132円(前期) | ▲4円 |
| | EUR 138円 | 138円(前期) | ▲0円 |
| | RUB 1.8円 | 2.0円(前期) | ▲0.2円 |
| TSR20※ | 131ｾﾝﾄ | 155ｾﾝﾄ(前期) | ▲23ｾﾝﾄ |
| WTI | 78ﾄﾞﾙ | 94ﾄﾞﾙ(前期) | ▲17ﾄﾞﾙ |

※SICOM TSR20 1M

（億円）

| | 2023年 見通し | 2022年 実績 | 増減 | 増減率 | 為替 影響 | 為替除く 増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上収益 | 9,000 | 8,605 | +395 | +4.6% | ▲183 | +578 |
| 事業利益 ※1 | 730 | 701 | +29 | +4.2% | ▲52 | +81 |
| （事業利益率） | (8.1%) | (8.1%) | - | | | |
| 営業利益 | 730 | 689 | +41 | +6.0% | ▲52 | +93 |
| （営業利益率） | (8.1%) | (8.0%) | (+0.1%) | | | |
| 当期利益 ※2 | 460 | 459 | +1 | +0.2% | | |

※1 事業利益＝売上収益 － (売上原価＋販売費及び一般管理費)
※2 親会社の所有者に帰属する当期利益

YOKOHAMA

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.



外部環境の前提です。

為替は、USドルが128円、EURが138円です。

原材料については天然ゴム（TSR20）が131セント、WTIが78ドルを想定しています。

売上収益は9,000億円で、前期比395億円、4.6%の増収予想です。

事業利益730億円で、前期比29億円、4.2%の増益、営業利益は730億円で、前期比41億円、6.0%の増益、当期利益460億円、前期比1億円の増益予想です。

# 事業別セグメント予想（通期）

（億円）

| | | 2023年見通し | 2022年実績 | 増減 | 増減率 | 為替影響 | 為替除く増減 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 売上収益 | タイヤ | 7,875 | 7,543 | +332 | +4.4% | ▲177 | +509 |
| | (うちYOHT) | (1,460) | (1,558) | (▲98) | (▲6.3%) | (▲40) | (▲58) |
| | ＭＢ | 1,025 | 962 | +63 | +6.5% | ▲10 | +72 |
| | その他 | 100 | 99 | +1 | +0.8% | +4 | ▲3 |
| | 合計 | 9,000 | 8,605 | +395 | +4.6% | ▲183 | +578 |
| 事業利益 | タイヤ | 675 | 668 | +7 | +1.0% | ▲48 | +55 |
| | (うちYOHT) | (177) | (221) | (▲44) | (▲19.9%) | (▲3) | (▲41) |
| | ＭＢ | 62 | 40 | +22 | +56.4% | ▲3 | +25 |
| | その他 | ▲7 | ▲8 | +1 | – | ▲0 | +1 |
| | セグメント間消去 | – | 0 | ▲0 | – | – | ▲0 |
| | 合計 | 730 | 701 | +29 | +4.2% | ▲52 | +81 |

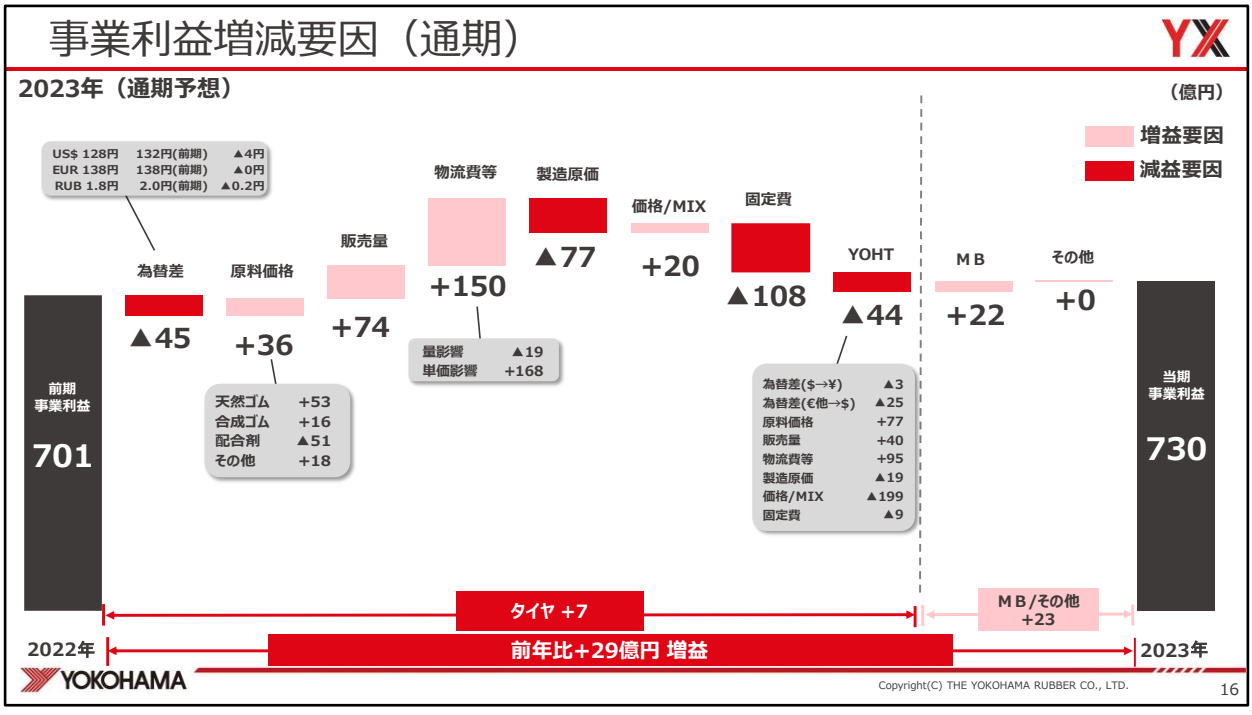
Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.



事業別セグメントの状況です。

タイヤ事業の売上収益は7,875億円で、前期比332億円、4.4%の増収予想です。
MB事業は1,025億円で、前期比63億円、6.5%の増収予想です。

事業利益はタイヤ事業が675億円で、前期比7億円、1.0%の増益を見込んでいます。
MB事業は62億円で、前期比22億円、56.4%の増益を見込んでいます。




事業利益の増減要因です。

前期が701億円、当期予想が730億円、差し引き+29億円の内訳となります。

まずタイヤ事業＋7億円の内訳です。為替で▲45億円、原料価格で＋36億円で、
内訳はスライドの通りとなっています。

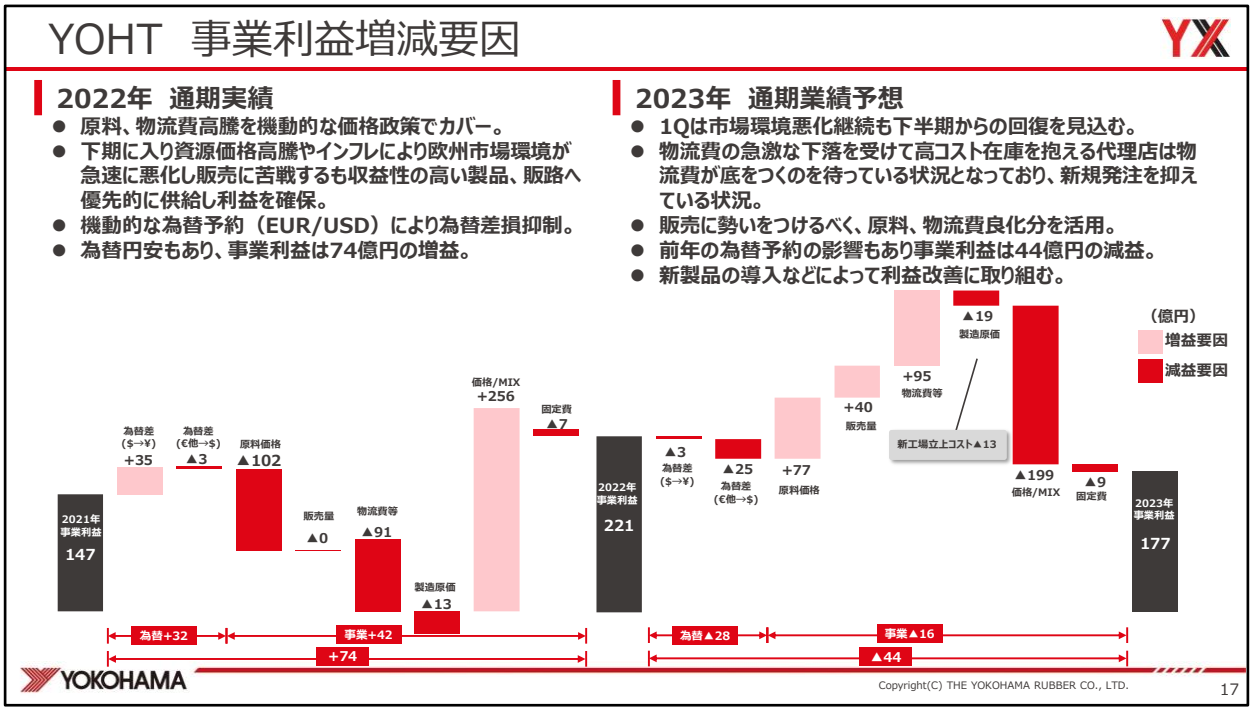
販売量は販売本数5%増で＋74億円、物流費等は＋150億円で物流コストの単価良化は
168億円となっています。

製造原価は▲77億円でエネルギーコスト、インフレによる人件費、経費等の増加を見込んでいます。

価格/MIXについては、前年実施分の刈り取りを織り込む一方で原材料や物流費下落による環境
変化のリスク等を織り込んでおり、さらに未実現利益の悪化もあり+20億円を見込んでいます。

固定費は▲108億円となり販促費、人件費、経費の増加を見込んでいます。

YOHTは▲44億円を見込んでおり、MBで＋22億円、その他は前年並みとなっています。




最後にYOHTの事業利益増減要因について補足します。

2022年実績は原材料価格、物流費高騰も機動的に価格転嫁することができています。為替についても機動的にEURの為替予約を実施し、EUR/USDクロスレートの悪化による為替差損をヘッジしています。加えてUSD決算のATGを円換算した際の為替差+35億円もあり74億円の増益となりました。

2023年業績予想は、第1四半期は前年からの厳しい市場環境が継続するものの、下期からの回復を見込んでいます。足元ではフレートの急激な下落により代理店の買い控えが起こっているため、代理店支援により単価の高い流通在庫の早期解消や市場変化への対応を最大限織り込んでいます。

前年は為替予約で40億円程度の増益効果がありました。また本年度については新工場立ち上げコストが13億円あり、これらがなければ事業として実質増益となります。本年は新工場のPhase1がフル稼働し、2024年年初からPhase2が立ち上がり、今後もYOHT事業は当社の成長と収益の柱として考えています。

以上です。

## 将来見通しに関する注意事項

この資料に含まれている将来に関する見通しや予測は、現在入手可能な情報を基に当社の経営者が判断したものです。実際の成果や業績は、さまざまなリスクや不確定な要素により、記載されている内容と異なる可能性があります。

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

# （ご参考）タイヤ販売本数伸張率

販売本数伸張率

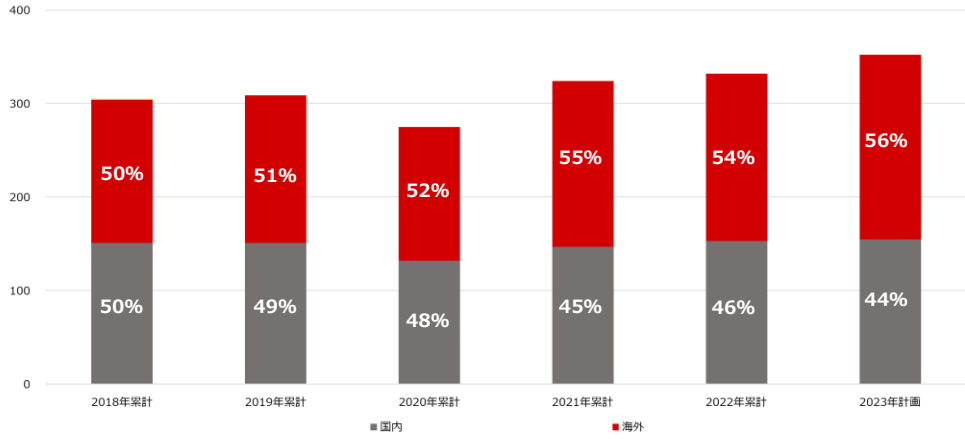
| タイヤ事業 | | 2021年実績 | | 2022年実績 | | | 2023年計画 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 4Q単体（20年比） | 年間（20年比） | 4Q単体（21年比） | 下期（21年比） | 年間（21年比） | 年間（22年比） |
| 国内 | OE | 76% | 93% | 111% | 115% | 98% | 114% |
| | REP | 106% | 105% | 94% | 104% | 108% | 100% |
| 海外 | OE | 93% | 104% | 78% | 97% | 100% | 104% |
| | REP | 109% | 121% | 94% | 101% | 102% | 106% |

地域別販売本数前年伸張率／四半期・年間

| | 2021年実績 | | 2022年実績 | | | 2023年計画 | 地域別構成比 | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 4Q単体（20年比） | 年間（20年比） | 4Q単体（21年比） | 下期（21年比） | 年間（21年比） | 年間（22年比） | 2021年年間 | 2022年年間 | 2023年計画年間 |
| 日本 | 97% | 101% | 98% | 107% | 105% | 104% | 38% | 39% | 39% |
| 北米 | 110% | 116% | 101% | 104% | 103% | 106% | 20% | 20% | 21% |
| 欧州 | 127% | 122% | 76% | 92% | 101% | 104% | 7% | 6% | 7% |
| ロシア | 102% | 110% | 57% | 55% | 59% | - | 4% | 2% | - |
| 中国 | 87% | 106% | 73% | 96% | 97% | 108% | 17% | 16% | 17% |
| アジア | 108% | 130% | 109% | 117% | 119% | 107% | 10% | 12% | 12% |
| その他 | 123% | 127% | 97% | 105% | 101% | 92% | 5% | 5% | 5% |
| 合計 | 101% | 110% | 93% | 103% | 103% | 105% | - | - | - |

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

# （ご参考）タイヤ生産ゴム量実績（年間累計推移）




| （単位：千トン） | 2018年累計 | 2019年累計 | 2020年累計 | 2021年累計 | 2022年累計 | 2023年計画 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 国内 | 151 | 151 | 132 | 147 | 153 | 155 |
| 海外 | 153 | 158 | 143 | 177 | 179 | 198 |
| 合計 | 304 | 309 | 275 | 324 | 332 | 352 |

Copyright(C) THE YOKOHAMA RUBBER CO., LTD.

YOKOHAMA

YX

YOKOHAMA Transformation 2023